

## 昭和51年度日本気象学会総会議事録

日時 昭和51年5月19日 15.00～16.15

場所 気象庁講堂

出席者 140名

書面参加・委任状 785名

計 925名

### 開 会

小平理事が定例総会開会を宣言。

### 議長選出

小平理事が、議長の選出は定款第35条で出席会員の互選により決める事になっているが、慣例により大会委員長を議長に推したいと諮ったところ、満場一致で浅井富雄大会委員長が議長に決定した。

#### 1. 議長あいさつ

ご指名により議長をつとめさせていただきます東京大学海洋研究所の浅井です。時間が限られていますので、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

#### 2. 理事長あいさつ

磯野 謙治

昭和51年度春季日本気象学会総会に際して一言御挨拶申し上げます。

本総会の会員数は年々増加して参りましたが、ここ1、2年その増加にやや頭打ちの様子が見られました。しかし幸いなことには最近再び増加の傾向が見られる様になりました。会員数の増加は必ずしも学会の発展を意味するものではありませんが、気象学の発展には研究者層を厚くし、異った分野の研究者が協力して研究を行うことが重要であることを考えるとき、学会の質的向上と同時に会員数の増加につとめることも必要です。従って、この様な観点からの機関誌の充実、講演会（大会を含む）の開催方法の改善を考えることが必要です。学会の発展と関連して、既に御承知の様に本年4月から中部支部が発足し、本年秋の大会が同支部の世話で開催されることとなっております。

大会および学会誌に関しては、大会の予稿集の原稿の締切期日と気象集誌の掲載料（ページチャージ）について若干の変更をしましたが、これらについては今後さらに検討を行う必要があると思われしますので、会員の皆様が御意見を寄せられることをお願い致します。

これまで皆様に御協力をお願いして参りました学会の財政については、会費前納制の実施や会員の会費納入率

の上昇（これまでの最高率95%に達しました）と、種々の収入を得ることに努力しました結果、昭和51年度の前納分に加えて51年度に約250万円の繰越しをすることができました。この結果、51年度には会費の値上げを行わないで済むことになりました。この様に財政の健全化ができましたことは皆様の御協力によるものですが、物価の動向は前途必ずしも楽観できないものがありますので、会費100%完納に御協力願いたいと思います。財政の健全化の上に機関誌の質的・量的の充実、学会諸活動の発展ができるものと考えます。

本学会関係の国際協力事業としては、GARP（地球大気開発計画）のAMTEX（気団変質実験計画）が成功裡に終り、その成果が現在出つつありますが、来年8月米国のシアトルで開催のIAMAP（国際気象学・大気物理学協会）の大会で一つのセッションをその成果の発表にあてる様に準備を進めております。GARPに関連しては、日本の最初の静止衛星GMS-1の打上げも来年6月に予定されております。またMONEX（季節風実験計画）、POLEX（極地実験計画）の準備が進められております。本大会においてもシンポジウムおよびインフォーマル・ミーティングが行われますが、極地においては気象学・大気物理学の立場から重要な未開拓の問題が多く残されていると考えられますので、会員の皆様が一層の関心を持たれることを期待致します。

これまで、気象学・大気物理学の研究体制の強化に関してたびたび報告致しました様に、日本学術会議の勧告のありました大気物理学研究所創設、大学の研究教育体制の強化について関係委員会などでその実現に努力して参りました。しかし、現在の情勢では大気物理学研究所の早期実現は不可能であり、現段階ではまず大気物理学の研究教育体制を充実し、研究者層を厚くし、現在急速に拡がりつつある大気物理学の新分野を進展させるための体制をつくることが緊要であるという観点に立ち、文部省測地学審議会気象水象部会で大学の研究教育体制の強化の具体案が検討、審議されております。

気象学は、基礎から応用まで広汎な分野を含んでおりますが、天気予報、防災、環境、気候変動の予測など、社会的に強く要望されている問題を解決するためには、気象事業とその基礎となる研究と同時に、大気物理学研究所の設立に期待された基礎的な研究を行う研究・教育

体制の強化が必要であることは申すまでもありません。

大会は上に述べた様な広汎な研究者の交流の場として、個々の研究の発展はもとより、相互の理解と気象学・大気物理学の正しい発展のための長期の計画について話し合う場として活用されることを期待致します。

本総会は第18期理事会のお世話をします最後の総会で、来る7月には新しい理事会が構成されることとなります。第17・18期の2期にわたり会員の皆様から賜りました御鞭撻、御協力に深く感謝の意を表し、理事長退任の辞とさせていただきます。

3. 気象学会賞授与

小平理事から選定理由の紹介があり、満場拍手のうち

に磯野理事長から次の会員にそれぞれ賞状、賞牌、賞金が授与された。

廣田 勇会員：成層圏・中間圏におけるプラネタリ一波の研究

近藤 純正会員：海面上の境界層の研究

4. 藤原賞授与

小平理事から選定理由の紹介があり、満場拍手のうち磯野理事長から次の会員に賞状、賞牌、賞金が授与された。

和田 英夫会員：大規模大循環の研究と長期予報技術の開発

議長：現在出席者は140名で通常会員数2925名の1/25の

第1表 昭和50年度決算書

収入の部				支出の部			
科目	金額	内訳	備考	科目	金額	内訳	備考
会費	23,083,317	円		印刷編集費	49,322,855	円	
雑誌図書頒布	37,227,783			気象集誌		6,368,530	53/2~54/1
気象研究ノート		8,901,737		天気		10,145,030	22/3~23/3
予稿集		1,224,285		気象研究ノート		10,634,070	123~128
外国文献集		2,461,740		予稿集		871,500	
百年史		22,263,869		百年史		18,841,985	
その他		2,376,152		外国文献集		2,461,740	
文部省助成金	1,120,000			図書購入費	1,261,700		内1,103,200円は用語集
雑収入	5,202,734			発送通信費	2,815,778		
前年度繰越金	10,274,809			会議費	631,342		
				学会賞	50,000		
				藤原賞	50,000		
				奨励金	100,000		
				支部交付金	989,450		
				事務費	7,707,718		
				人件費		3,889,170	
				物品印刷費		1,463,693	
				雑経費		2,354,855	百年史手数料を含む
				旅費	50,000		
				退職金	952,300		
				予備金	410,000		
				次年度繰越金	12,567,500		繰越金の内10,536,200円は51年4月~12月の前納金
合計	76,908,643			合計	76,908,643		
基本金		650,000					
職員退職積立金		120,000					
藤原賞基金		1,500,000					

117名以上の出席があり、また委任状も785通きており、総会成立の条件に合っているのでただ今総会は成立した。

### 5. 昭和50年度事業経過報告

小平理事から、次のとおり事業経過報告があった。

- (1) 50年度には、気象集誌・天気・気象研究ノートを定常的に発行した。(気象集誌は、53巻2号～54巻2号、天気は、22巻4号～23巻3号、気象研究ノートは124号～128号まで発行。)また、気象百年史の増刷と、学術用語集・気象学編が完成して気象学会から販売している。
- (2) 学会賞、藤原賞は3名の方々にそれぞれ贈呈した。
- (3) 学会奨励金は、昨年秋の大会で、釧路の鈴木和史会員と、米子の岸田和博会員に贈呈した。
- (4) 夏季大会は例年のとおり開催し、学校における気象教育を目的としたところ100名を超える参加者があり大盛況であった。
- (5) 予稿集、ページチャージについては従来のシステムを変えて、予稿集をいつもより早く提出するよう試験的にやっている。また、ページチャージは最初の頁から12頁までを1頁当り3,000円、13頁以上の分については、1頁9,000円となった。

### 6. 昭和50年度会計決算報告

野本理事より、第1表の決算書について説明があった。

### 7. 昭和50年度会計監査報告

藤田監事から次のとおり監査結果が報告された。

- (1) 監査月日 1976年4月30日
- (2) 監査場所 東京都千代田区大手町1-3-4  
日本気象学会事務局
- (3) 監査内容
  - ア. 1975年度決算書
  - イ. 現金出納簿
  - ウ. 領収証綴
  - エ. 普通預金通帳
  - オ. 郵便振替受払通知票
  - カ. 備品台帳
- (4) 監査意見

監査の結果1975年4月1日より1976年3月31日に至る会計年度の決算書は、正しいものと認める。書類の記帳は正確であり、整理も極めて良好であり備品台帳も整備されていた。これは昨年の監査の時にもお願いしたことであり、本年は郵便料金計器、その他の事務器

も整備されたので備品台帳も整備された。

会費の収入状況は良好であり、会費前納者は約95%。今後とも会費の100%前納を目指して努力されるよう期待する。

議長より以上3件について賛否を諮ったところ、賛成圧倒的多数により以上3件は承認された。

### 8. 学会賞および藤原賞受賞者選定規定の一部改正

小平理事が学会費および藤原賞の賞金は、1件5万円となっているが、この金額は、昭和37年に改正されて以来据置きのままとなっており、物価の上昇などから増額せざるを得ない状況となったので1件7万円に増額することを提案した。

議長がこの提案について賛成者の挙手をもとめたところ賛成多数で承認された。

### 9. 昭和51年度事業計画

小平理事から次のとおり事業計画の説明があった。

- (1) 定期刊行物は、集誌・天気・気象研究ノートをそれぞれ財政の許す範囲で充実したものを発行していきたい。天気・大会予稿集には、4月号から広告取扱専門業者と契約して大幅に広告を取り入れて財政に寄与するようにしているので多少体裁が変わるがご了承いただきたい。
- (2) 天気の内容を会員の要望に合ったものとするため、アンケートを取りたいと思うので、天気にアンケートがはさみ込まれたら、どしどしご意見を寄せていただきたい。
- (3) 夏季大会は、本年も例年のとおり、学校における気象教育特集(新しい気象学)として気象庁講堂で開催する計画である。夏季大会は講演企画委員が担当してきたが、年々盛会になってきたので次回からは新しい委員会を設けて専門に取扱ってゆくようにしたい。
- (4) 奨励金について、従来は気象庁内から候補者推薦が多かったが、受賞者3名のうち少くとも1名は、小・中・高校の先生方から選定したいので、よろしく推薦をお願いしたい。

### 10. 昭和51年度予算案

野本理事から第2表の予算案について予算編成の方針と内容について説明が行れた。

会員数は予算書に示してあるとおりだが、前年に比しA会員は105名、B会員は34名の増に対し、学生のA・B会員は40名の減少となっている。これは卒業したためである。また団体で予算節減の折柄99名の減少となっている。

第2表 昭和51年度予算書(案)

収入の部				支出の部			
科目	金額	内訳	備考	科目	金額	内訳	備考
会費	20,641,400			印刷編集費	23,544,900		
A会費		6,205,500	会員数 1,773	気象集誌		5,331,800	年間 500頁
B会費		7,042,000	" 1,006	天 気		9,921,600	" 790頁
学生会費 A		81,400	" A 37	気象研究ノート		6,541,500	
" B		356,400	" B 81	予稿集		1,050,000	
外国在在会費 A		12,900	" 外 A 3	会員名簿		700,000	
" B		722,400	" B 84	図書購入費	250,000		
団体会費 A		475,200	" 団 A 88	発送通信費	5,426,000		
" B		3,585,600	" B 332	気象集誌		616,800	
賛助会費		2,160,000	賛 32	天 気		1,483,200	
雑誌図書頒布	11,737,200			気象研究ノート		951,000	
気象研究ノート		8,800,800		一般通信費		2,375,000	
予稿集		1,260,000		会議費	830,000		会議費の内 450,000円は 総会大会費
その他の		1,676,400		学会賞	70,000		
文部省助成金	1,120,000			藤原賞	70,000		
雑収入	4,740,000			奨励金	150,000		
前年度繰越金	12,567,500			支部交付金	1,000,000		7万円+(350 円×会員数)
合計	50,806,100			事務費	6,304,000		
基本金		650,000		人件費		4,225,600	
職員退職積立金		120,000		物品・印刷費		840,000	
藤原賞基金		1,500,000		雑経費		1,238,400	
				旅費	120,000		
				退職金	90,000		
				予備金	300,000		
				翌年度繰越金	12,651,200		繰越金の内 10,274,500円 は52年4月～ 12月分の前納 会費
				合計	50,806,100		

つづいて、昭和51年度事業計画・予算案について一括審議に入った。

杉村行勇会員：経済状況が困難な折柄立派な決算および予算案を作成されたことに対し敬意を表するが以下の点で改善をお願いしたい。

(1) 従来4ページの free page があったが、これが理事会で討議の結果廃止ときまり、ページチャージをとることになったと聞いている。うかがうところによると、学会の収入としては差がないとのことである。それならば、やはり会員の権利として従来通り free page のあることを望む。

(2) 学会誌論文レフリーに正しく返送用封筒が送られていない例がある。これについてもやはり法人として

正常な運営を期すべきである。

(3) 常任理事会等の常置委員会委員の旅費について、法人にもかかわらず委員会への出席旅費が支給されていないと聞いている。やはり社団法人として正常な運営を期すべきで個人に負担させるべきではない。これは学会として検討すべき問題であると思う。

議長：気象集誌のページチャージの件については、理事会でも慎重審議を重ねてきたが、この間の事情を二宮担当理事にお願いしたい。(欠席のため代って野本理事が次のとおり答弁した。)

野本理事：数年前までページを超過する部分について取っていたが、諸物価高騰に伴い学会運営が困難となった。このため

- (1) 4ページを超えるものについて印刷費の1/2  
 (2) 9ページを超えるものについて印刷費の全額(19,000円)を負担していただいている。今回1ページ目から一律3,000円取ることに改めた。

この理由として

- i) 過去4年間について調べたところ殆んどすべての投稿者は、何等かの方法でページチャージがその人の所属する機関で支払って貰えた。  
 ii) 最近の投稿者の刷り上りページ数が、9~12ページのものが多くなっている。この人達にとって、9ページ以上は印刷費の全額を負担することになるので、8ページまでのものよりページ当りのページチャージの単価が高くなり、他とのつり合いがとれなくなる。  
 iii) 1~4ページのものも無料にしておく、特に外国からの内容のおそまつなノートが多くて処理に困っている。しかしページチャージを自費で支払わねばならない投稿者の場合は考慮することにして

議長：レフリーの通信料の問題は、私も編集委員の1人で当初担当理事から切手が前もって委員に送られてきた。それをレフリーの方の宛にそれに見合うようなものを送っていただく建前になっているので質問の2番目の問題は実行している。ただし封筒までは送っていない。

質問(3)については小平理事が次のとおり答弁した  
 小平：以前には旅費も支給していたこともあったが、中々面倒な事もあって安易な方向にきてしまっている。今後できる範囲で、できるだけそういうふうに検討して行きたい。

この他に質問はなく、議長が、昭和51年度事業計画、同予算案について承認の方の挙手を求めたところ、全員賛成で以上2件は承認された。

#### 11. 山本義一会員を名誉会員に推薦する件について

小平理事が、当学会の理事として通算16年、うち理事長として4年間、学会の維持発展に努められ、現在は東北大学を辞められたが永年にわたり気象学の発展に尽力された。当学会としてはこれらの功績を高く評価し定款第6条第5項を適用して名誉会員に推薦したいと提案理由を説明した。

議長が、本件について賛成者の挙手を求めたところ、全員賛成で承認された。また、都合により先に帰られた山本義一会員よりの、厚く会員の皆様にお礼申し上げたいとの伝言が、議長より述べられた。

#### 12. 次期当番支部

孫野理事が、次期当番支部を北海道支部が引き受ける事を報告した。

議長：これで予定された議事は、会員の皆様の御協力により、すべて終了した。